

第4回ヒューマンネットワーク学習会 参加者感想アンケートまとめ

秋田県教育カウンセラー協会

2024年3月24日（日） 10:00～12:00

講義テーマ「福祉の視点からの児童生徒への支援について」

保泉 朋子 氏（秋田市基幹相談支援センター 専門相談員）

リレーションづくり ①名前と所属や家庭での役割について、②春の食べ物といえば、
③実は私…（この一年、人知れず頑張ってきた自分にスポットライトを当てる）

学習会についての感想

✿ 今日はありがとうございました。

普段、事例研究はスクールソーシャルワーカーの研修会においてもする機会は少なく、今日の学習会はとても良い機会になりました。講師の保泉さんの説明や解説もよく理解できました。

また、講座の最初のアイスブレイキングも良かったです。

このような学習会がありましたら、次もぜひ参加したいと思います。

✿ 先日は貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。

久しぶりの対面での学びの場でしたが、私は対面の学びが好きだなあといいながら参加していました。

保泉先生より基幹相談支援センターの説明をいただき、非常に多岐にわたる支援がされていることに驚きましたが、利用される方々からすれば「たらい回し」にされるようなことが少ないのではないのかなと思いました。

事例検討のグループワークではメンバーの方々の知識の豊富さや見立て方に圧倒されたと同時に、まだまだ勉強が足りない自分に気がつきました。また、福祉制度は本人や家族の申請がなければ生きてこない…社会資源の情報提供ということも押さえることができて良かったです。今後、支援に必要な制度や施設については、どう使っていけるのかという視点で考えていきたいと思いました。また、相談を受けたときに、『相談者が何に困っていて、その問題は誰の課題なのか』というところを言葉にしていたことで、自分の中でストンと落ちたところがありました。うまく表現できないのですが、なにかスッキリしました。（…語彙力も身につけたい）

普段の仕事ではなかなか出会えない事例でしたが、今回学習会に参加できたことで自分の中に新しい視点が加わったと思います。また、参加したいと思います。ありがとうございました。

✿ 久しぶりの対面学習会で、楽しく参加できました。企画してくださった阿部先生、お話をくださった保泉先生、そして参加者の先生方に心より感謝致します。

保泉先生の講話のテーマは、長年疑問を抱いていたことなので、大変興味深くお聞きしました。また事例を中心にしたグループワークがとてもよかったと思います。欲を言えば、もう1つ事例について、今度はメンバーを入れ替えるなどして、多様な視点から話し合いをしたかったと思います。冒頭の関係づくりも、とてもよかったと思います。

一人の子どもの健全な成長のために、周囲の大人が手を取り合っていくことが大事です。

しかしながら制度や仕事の範囲や限界があり、すきまの部分で子どもが困っているように感じていました。保泉先生のお話から、まずは課題と目標を共有すること、そして学校は本人の自立の力を育てるために働きかけ、福祉は、子どもに最も近い大人(母親が主)に働きかけることかなと感じました。正解もゴールも、子どもの人生の先にあるものは見えませんが、今、今日、そして明日と、近い未来での子どもの安心感を目指して、できることを積み重ねていくことかなと思いました。

そして最後の保泉先生の言葉に深く共感しました。制度や組織の中の一員として、の前に、一人の人として、目の前の子どもと心を交わしながら関わっていくことこそが、支援なのだと思います。

学習会で学んだことを日々の実践に役立てていきたいと思います。ありがとうございました。

✿ とても分かりやすく実践的な内容のお話でした。

基幹相談支援センターの役割だけでなく、支援の事例も考えさせられました。また、それぞれの機関でできることには限りがあり、その隙間をいかに埋めていくかということも大きな問題だと感じました。

主に身体障がい、知的障がい、精神障がい、発達障がいおよび難病患者その他心身の障がいや社会的な障壁により生活に援助が必要な人(家族や施設職員など、本人以外からの相談も可能)を対象とした秋田市基幹相談支援センターでも、学校で起こるような相談事例もあることに講師の先生の支援の幅の広さに驚嘆しました。悩みを一元的にとらえるのではなく生物学的視点・心理的視点・社会的視点の多元的な視点から情報を収集して支援を進め、問題点を焦点化していき、本人や保護者、支援者と共によりよい生き方を目指して共同で支援を進めていくことが大切だと感じました。

また、冒頭のリレーションづくりもよかったです。教育カウンセリングを学ぶ上で、大切な儀式の場ですね。この時間も充実しました。ありがとうございました。

✿ 子どもを中心に据えた福祉の支援、関係機関との連携の在り方についてとても参考となる研修だった。近所のおばちゃん的な支援を目指す保泉先生の姿勢に共感がありました。

✿ 久々の対面での学習会に人と関わりながら学習する良さを感じました。

講義内容が興味深く、さまざまな事情を抱える子どもたちにどんな関わりができる考える場を持てたことも意義深かったです。現場を離れて実際に問題に対処することはありませんが、「そんな関わり」が有ればいいなと漠然と思っていたことを皆さんと確認しあえたことが自分にとっては社会とつながっていく足がかりにもなるような気がしました。

「おばちゃんの家」いいですね。ちょっとお節介なおばちゃん？おばあちゃん？になりたくなりました。

参加してよかった、おもしろくてためになる時間でした。有り難うございます。

✿ 保泉先生、貴重なお話をありがとうございました。お話がお上手で、まるで先生のバイクに乗ったかのように2024年、昨今の児童生徒を取り巻く現状と支援を短時間で濃くむらなく一直線に聞くことができました。事態は重くてもそっと寄り添うことができる先生のお力の大きさを感じました。本当に有意義な時間を過ごさせていただきました。

先生が「どんなに新しい連携機関を作っても指のすきまをこぼれていく感じがする、おばちゃんの家を・・・」といったとき地域の教育力の低下、まさに近所のおじさん、おばさん、たくさんの子どもがいなくなったことを実感しました。(私の子どものごころとは大きくはつきり違う。)

友達が神奈川で里親をしてました。不登校の子を登校させたり，育児放棄された子を就職まで導いたり，そして卒業式に実親でなく施設の人でもなく里親を招待してくれたと・・・。愛情をかけて世話をしあげれば，心の居場所があれば，子どもは育つと教えられた気がします。

何ができるだろう？大きなことはなせないけれど，温かい声かけって，毎日，無理なくできることだよねと気づきました。先生，またお話をお伺いしたいです。お願いします。ありがとうございました。

✿ 当初は 1 月にオンラインにて開催する予定でしたが，3 月の対面での開催に変更させていただくことになったにもかかわらず，講師の保泉先生には前向きに捉えていただき，大変有り難く思い，学習会当日を心待ちにしておりました。

今回の事例により丁寧に寄り添い，関係を紡いでいくことの大切さを感じました。何か大それたことをめざすのではなく，子どもの福祉（welfare, wellbeing）の推進をめざして，それぞれの役割や守備範囲を理解しつつ，切れ目や隙間のない支援ができるように多職種で手を携えて協働できればと思います。また，子どものことを気にかけてくれる，育ててくれるお世話好きな方（おじさん，おばさん，お兄さん，お姉さんなど）が一人でも増えていくとよいですね。事例でのお子さんが自己実現に向けて動き出せたのも，そこに自立に向けた支援があり，「よりよく生きたい（being）」と思えたのではないのでしょうか。

他の事例もグループで検討したいところでしたが，それほどグループでの討議が学びが多く，充実していたからだと思います。

今回の学習会を一つのきっかけに，児童福祉をテーマに研修を継続できればと思っています。またご参加いただけると有り難く思います。

保泉先生，示唆に富んだご講義を本当にありがとうございました。

———— アンケートにご協力をいただき，ありがとうございました。

